

1 「本質的な問い」による単元構想について

- 本単元の本質的な問い「私たちは、地域とどう関わり、どう生きていくか。」に対して、地域の強みや弱みを考えながら、どのように地域のよさを発信していくかについて考えることができた。
- 発信先が校内だけだったため、モチベーションを高くもちにくかった。地域に詳しいゲストを呼んでアドバイスをもらったり、プレゼンテーションのプロに指導してもらったりする等、生徒が本気にならざるを得ない場を設定する必要があった。
- 「生徒が解決したくなる課題、やって良かったと思える課題」になっていなかった。単元の課題設定を見直す必要がある。

2 単元で育成を目指す資質・能力について

【知識・技能】

- インターネット等を用いて、地域の情報はよく集められた。
- 「地域社会に貢献していることに気づいている」には至っていない。

【思考・判断・表現】

- 話し合いの視点を明確に提示したり、視点ごとの色分けや発表の型など視覚支援を工夫したりしたことで、生徒は迷うことなく話し合いができた。
- 話し合いの場を数回もつことで、他者の意見を取り入れながら自分の考えを深めていくことができていた。また、自分たちの足りない部分を明確にして補うために考えている場面が多く見られた。
- 映像で前回の発表を客観的に振り返る場面があると、より明確なアイデアが出たかもしれない。

批判的なコメントも受け入れる。いろいろな意見を取り入れることで、今までとちがった見方ができるようになる。

今日の思考スキルを使えば、整理・分類したり、優先順位を決めたりするのが簡単になる。

視点を決めると、具体的に何が悪かったのかが見えて改善点がよく分かる。

【生徒の振り返り～改善点を見出し、改善方法を決めるときに使えることを書く～（8時間目）】

【主体的に学習に取り組む態度】

- 他グループからの意見を聞いて、それを基によりよいプレゼンテーションにするための工夫を話し合うことができた。
- 「呉の魅力を実生活のなかでも見つけようとする」までには至っていない。

3 「デジタル機器」の活用

- ロイロノートで班内の作業を効率良く進めたり、パワーポイントを使って一目で分かるスライド作成をしたりなどができていた。
- 研究授業ではあえて ICT は使用しなかった。個々の意見を出せる場では、付箋に意見を書かせて大きな紙に貼らせた。自分の意見を言いながら貼ることで互いに顔を見ながら意見交流ができた。また全体場で意見を発表する際は、指導者が意見をキーワード化しながら板書した。分かりにくい意見が出た場合は、指導者が繰り返し発問をすることで、意見を整理させ、誰にでも分かる形で提示することができた。しかし、全体交流を効率よく進めるためには、ロイロノートの共有ノートを活用することが望ましかった。

別紙様式